

バイオポット苗木を用いた植栽実証試験検討会開催

10月22日（木）茨城県高萩市の国有林において、「バイオポット苗木を用いた植栽実証試験検討会」を開催しました。

当日の天候は曇りでしたが、標高約420mの国有林とあってシャツ一枚ではとても寒い一日でした。

検討会は、三重県産のヒノキ（挿し木）を生分解性栽培容器である「バイオポット」を用いて栽培した苗木を、秋植えの条件下で植栽する実証試験です。



〔バイオポット苗木〕

今後の課題として、植栽した苗木が茨城県の気候や土壌に馴染むのかどうかあげられます。

いずれにしても、国、県、林業事業体を通じて主伐再生林の低コスト化を目標とした試験という意味で、今後の林業のあり方や可能性を考える上で有意義な検討会となりました。

バイオポット苗木を開発した速水林業から川端康樹氏を講師として招き、茨城県、林業事業者等の関係者約70名が参加して植栽面積0.6haの試験地に1,200本を植栽しました。

バイオポット苗木は実際に植栽を行ってみると思った以上に容易で三重県での植栽時期は春に加えて秋植えも可能とのことでした。



〔検討会説明の様子〕



〔植栽実証試験の様子〕

参加者からのアンケートでは、「どの位の期間で分解するのか」、「根鉢の崩れを気にすることがないので植栽が楽だった」、「普通苗と比較して成長はどうなのか」、などの感想や意見が寄せられました。